

第6節 フロリダバス養殖

ブラックバスの放流による既存の魚族に対する影響については、別項「ブラックバスの放流」で述べているように種々対策が検討されているが、1989（平元）年にオオクチバスの亜種であるフロリダバス¹⁾ *Micropterus salmoides floridanus* が養殖の新種として本県や宮崎県に導入され、養殖されるようになった。

1. 概要²⁾

導入年月 1989（平元）年 4～5月 導入先 台湾

導入斡旋業者 三股水産（大分県）

県内養殖業者 指宿市内のテラピア養殖業者7人

導入数 3～4cm（約1g）の種苗約1万尾 種苗価格 100円/尾

三股水産は台湾産オオクチバスのフィーレを輸入しており、ヒメススキの商品名で販売実績があることから将来性を見込んで種苗導入を図ったものと思われる。1990（平2）年には、同地区内の5業者が60万尾を池入れ養殖した。池はテラピア養殖に使用したもので、用水は地下温泉水、餌には初めはテラピア用配合飼料が使用された。成長は1年で600～800gであった。生産量は1990年約30ト、1991年約50トであった。

本種の養殖は、その後、吉松町と東町でも行われたが、いずれも数年で中止しており、現在は行われていない。理由は、種苗調達、魚病、成長、販売等の問題があり、また、生産性もテラピアより低かったためと考えられる。

2. 県（指宿内水面分場）の対応

当初、業者から相談はなく、情報も得ていなかった。指宿地区では、養殖場周辺に問題となるような河川はなかったが、在来魚に対する影響が強いことから、業者に対しては放流目的には絶対に販売しないことと、河川に出ないように注意指導が行われた。なお、吉松町の場合、川内川上流にあることから、職員が出張し直接指導を行っている²⁾。今後、本種のように一般河川、湖沼等の生態系への影響が問題となるおそれのある魚種の養殖については、事前に届出制等の検討が必要と思われる。

3. 参考文献

- 1) 田染博章（1992）：外来魚養殖の現状と問題点 ブラックバスとブルーギルのすべて．外来魚対策検討委託事業報告書，131．全国内水面漁連．
- 2) 水産試験場指宿内水面分場（1989～）：ブラックバス関係資料．